

# 4. 西宮市大谷記念美術館のあり方

2023年3月3日(金)  
たかのしん 一般質問資料

## ■収支状況の推移

年度		2016	2017	2018	2019		2020		2021
		決算	決算	決算	予算	決算	予算	決算	決算
収入	自己収入	66,616	33,578	33,966	29,091	36,763	29,332	15,997	30,433
	市運営補助金	140,000	139,300	140,243	139,743	139,743	169,096	154,378	130,000
	市施設改修補助金	15,000	28,313	23,976	49,619	49,619	40,150	40,150	37,400
	その他補助金	0	0	0	1	0	1	266	800
	寄付金	10,000	0	0	0	0	0	7,000	0
	特定財産取崩収入	0	0	0	20,723	15,545	0	0	0
計 (A)		231,616	201,191	198,185	239,177	241,670	238,579	217,791	198,633
支出	展示事業費	62,172	57,946	51,699	64,095	57,928	51,992	29,440	36,571
	管理費	1,694	1,832	2,691	2,423	1,832	2,736	1,927	2,679
	人件費	58,129	60,574	64,453	69,784	72,334	71,301	55,571	58,392
	光熱水費	15,018	15,517	15,923	16,541	15,609	16,900	12,941	14,650
	施設維持補修費	17,250	32,732	24,939	50,119	16,028	46,692	9,909	37,599
	施設維持管理費	44,712	44,241	45,365	46,114	44,689	52,120	51,245	47,146
	基本財産取得支出	0	0	0	0	33,924	0	34,210	0
	特定資産取得支出	1,594	2,081	1,589	2,101	2,100	5,838	12,837	613
	美術品取得支出	10,000	0	0	0	0	0	0	0
計 (B)		210,569	214,923	206,659	251,177	244,444	247,579	208,080	197,650
前期繰越額 (C)		13,344	34,391	20,659	12,000	12,185	9,000	9,411	19,122
収支差額 (D) ※ (A) - (B)		21,047	-13,732	-8,474	-12,000	-2,774	-9,000	9,711	983
次期繰越額 ※ (C) + (D)		34,391	20,659	12,185	0	9,411	0	19,122	20,105
入場者数		103,375	60,918	59,094	53,112		15,336		28,284

★マリメッコ展

★新型コロナの影響

# 4. 西宮市大谷記念美術館のあり方

2023年3月3日(金)  
たかのしん 一般質問資料

## ■運営改善策の進捗状況 ※2023年2月当局提出資料およびヒアリング内容を基に、趣旨を損なわない範囲で編集

区分	取組項目	取組状況
市との連携強化	1 市と大谷記念美術館が協議・連携、情報交換を行う場の設置	2021年1月に「大谷記念美術館運営検討委員会」を設置。2021年度は改善に向けた具体的な方策、2022年度展覧会内容などを議題として4回、2022年度は1回開催。
教育活動の充実 など市民との接点を広げる	2 広報の充実、ホームページ・SNS、地域のネットワークを活用	Facebook(2016年7月～、フォロワー数1,676件)・Instagram(2019年10月～、フォロワー数2,247件)・Twitter(2020年1月～、フォロワー数880件)にて、媒体ごとの特性を活かしながら、開催中の展覧会情報、庭園の開花状況等を発信。※フォロワー数は2023年1月31日現在
	3 教育普及事業の拡充 学校教育との連携によるアウトリーチ事業の拡充、校外活動での利用の促進	市の文化芸術小中学校アウトリーチ事業の美術部門で展覧会鑑賞を実施。アウトリーチ事業とは別に、隣接小学校全児童の団体見学を毎年受入。
	4 老人施設や児童施設、福祉事務所のレクリエーション活動と連携した事業の展開	介護施設、障がい者施設等からの鑑賞を受入。障がい者及び介助者1名は無料。
	5 学芸員の研究成果の市民への還元事業の充実	講演会・ギャラリートーク等の実施。(密を避けるため2020年度からギャラリートーク中止)
	6 西宮ゆかりの事業の充実	西宮市にゆかりがあり、美術界に大きな影響を与えた画家を紹介する企画を <b>継続して実施</b> 。
	7 コレクション情報のデジタル化によるデータベースの充実	データベース化は <b>2017年より実施</b> 公開し、ほぼデータ化済。著作権により公開できないものもあるが、基本的に収蔵品の増加ごとにデータ化(2023年2月時点で1556件)。作品への関心を喚起し来場を促す目的だが、 <b>アクセス件数は把握していない</b> 。
	8 ICTの活用によるデジタルデータの市民社会への還元(ホームページでの作品情報の公開促進、オンラインでの美術鑑賞プログラムの提供)	館が持つ高い学術知識を更に市民へ還元しPRを行うため、ホームページで作品情報を公開。
	9 ホームページ、SNS等の運動と情報の多言語化による美術館情報の市内・国内・国外への発信・PR活動の強化	多言語化による費用対効果、スマホの翻訳機能活用と不正な写真撮影防止策の兼ね合いについて <b>検討中</b> 。
	10 未就学年齢、子育て世代等へのプログラム開発	各展覧会で子育て世代等が親子で楽しめる関連ワークショップを実施。
	11 美術に興味の薄い市民にも美術館の魅力を知ってもらうように庭園や屋外作品をPR	庭園・屋内作品情報のPRにSNSを活用。ミュージアムコンサートの開催。
	12 公民館や商業施設でのアウトリーチ事業の展開を図り、市民生活に身近な美術のアピール	2022年度より、ららぽーと甲子園内ららストリートギャラリーに実施展覧会のポスターを展示。
	地域との連携	13 近隣の美術館、博物館等他の社会教育施設との活動連携
14 近隣市、県等との連携事業の展開		1977年度に設置した阪神間の美術館・博物館の連絡協議会で、 <b>情報交換会や研修会</b> を年4回実施・参加。
15 観光政策との連携		「阪神間モダニズム」に関する展覧会を過去2回開催。2022年度は「阪神間モダニズム」のスタンプラリーと観光協会主催のスタンプラリーに参加。
市補助金	16 市補助金の枠内で継続的な運営ができるよう、また市財政悪化による補助金の削減が見込まれるため、当面事業規模を縮小し市民に理解を求めていく。	2020年度は経費を抑えるため、館蔵品を中心とする展覧会を開催。テーマ設定のもとで企画展的なアピール。2022年度は交換展を行い輸送費や負担金等の経費を節減。2023年度もテーマを持った館蔵品展を実施予定。
収入確保	17 友の会制度の導入によるコア来館者の獲得	費用対効果を含めた他市の例などを <b>調査し検討</b> する。組織・会計を別に運営する必要があるため、当館の職員規模でも可能な友の会の形にとらわれない来館者の獲得を模索。
	18 入館料以外の収入事業の取り組み(公益目的事業の範囲内で収益を得られる事業)	展覧会開催時期に合わせた図録、関連品の販売を <b>継続</b> 。図録は当該展覧会の終了後なら通年web購入可能。 ※2021年度より図録、関連品の支払い、入館料のキャッシュレス化導入。
	19 賛助会員・寄附金等への積極的な取り組み	2021年度より市として企業版ふるさと納税開始。2022年度、開館50周年記念特別展開催への寄付等働きかけにより、企業版ふるさと納税、個人による寄附をいただいた。
	20 連携事業等の実施に係る国等の補助金の活用	2021・2022年度に民間補助金を活用。
	21 料金体系の検討	2021年度「イタリア・ポロニャ国際絵本原画展」より一般入館料を1,200円に設定(市民は1,000円)。
	22 入館者数及び有料入館者率向上策の検討(目標値:今後4年間で入館者及び有料入館者数10%の増)	2020～2021年度にかけて入館者、有料入館者数ともに <b>前年度の10%以上増</b> 。入館者、有料入館者率向上に向け、SNS等での積極的な情報発信とともに、チラシ配架やポスター掲示の依頼範囲を広げ、広報を強化していく。
支出削減	23 企画展の回数など、事業内容の見直しによる経費の縮減	2020年度より、新収蔵品展を統合したことで館内有効利用とともに経費削減。2021年度は、企画展開催回数を4回から3回にしたことで展覧会全体の開催回数を5回から4回に削減。
	24 喫茶スペースの採算性の検証と運営形態等の見直し	これまでは館が喫茶スペースの臨時職員を直接雇用していたが、2022年度からは臨時職員を含む喫茶運営を事業者に委託することで、労務管理等の館の業務量を削減し事業者の自主的な工夫を促す効果が見られた。